経済学部
坂元　浩一先生推薦
『カミュの手帖
〈第1〉太陽の讃歌、〈第2〉反抗の論理』

アルベール・カミュ著
（新潮社）

著者は、フランスの哲学者、小説家であるアルベール・カミュ Albert Camus（1913-1960）です。代表的な小説は『ペスト』『異邦人』です。1957年に史上二番目の若さでノーベル文学賞を受賞しましたが、1960年に交通事故で亡くなりました。

本書は、カミュが哲学の思索や小説の草稿時に書き留めたメモであり、また徒然に考えたことを雑多に記したものです。かれの哲学や思想の思考過程や内容がわかりますし、小説の背景となるかれの考え方や思いなどを理解できます。

カミュの手帖にあるいくつもの人生論は、推薦者（坂元）が学生時代に人生いかに生きるべきかと悩んだときに勇気づけてくれました。カミュの手帖の言葉を、そのまま自分で買った白い（白紙の）手帳にしたためたものです。この白い手帳に書き込んだカミュの言葉は、推薦者のその後の人生の指針となりました。例えば、推薦者は、下記の文章のそれぞれの言葉を時折肝に銘じながら、今日まで生きてきたと思います。

「因襲や、事務所で過ごす時間におぼれぬこと。あきらめぬこと。決してあきらめぬこと。――いつも、より多くを望むこと。そして、事務所で過ごす時間の間でさえも明晰であること。」

加えて、カミュの言葉から、個人が社会の中でどのように生きていくべきかを学びました。これは、西欧の人生哲学の基本ともなるものでしょう。推薦者は、自分という個人が生きる意義として社会への貢献を強く意識するようになり、世界の貧困問題を解決しようと大学院に進み、その後国連に就職してアフリカの貧困国で働くこととなりました。カミュの言葉の一つ、「いつも努力を傾けること、それが世界との絆を回復することだ」